

スマイル



地域包括支援センターは、病気の療養や介護、生活全般について相談できる町の高齢者相談窓口です。



寒い日が続きましたが、少しずつ日が長くなってきましたね。
寒さで縮こまった体を動かして、外にお散歩にでかけてみませんか？
小さい春が見つかるかもしれませんね。

認知症サポーターステップアップ講座を実施しました！

令和8年1月28日（水）文化観光交流館アトレ・るHallにて、認知症サポーターステップアップ講座を実施しました！過去に認知症サポーター養成講座を受講された方を対象に認知症についてより理解を深め、よりよい対応の仕方について学び、対応スキル等の修得を目指すための講座です。講師には、宮城県認知症キャラバン・メイトの介護保険外サービスココ・ア代表の松本 裕子氏をお招きし、ご講話いただきました。

参加された方からは、「認知症の母への対応に苦慮していたが、昨年認知症サポーター養成講座を受け、講座で学んだことを実践したことで、今は自宅で落ち着いて過ごすことができている。」等の感想が聞かれました。



ロバ隊長のマスコットを作ってみませんか？



ロバ隊長は認知症サポーターキャラバンのマスコットキャラクターで、キャラバンの先頭をロバのようにあわず1歩1歩着実に前進するという思いが込められています。認知症サポーターキャラバンは、認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを全国で育成し、認知症になっても安心して暮らせる町作りを目指しています。

松島町地域包括支援センターでは、認知症について知りたい方へ、認知症サポーター養成講座を随時実施しています！

地域の集まりやお茶飲み会など少人数でもお伺いしております。ロバ隊長のマスコットの作り方や型紙も一緒にお配りしておりますので、一緒に認知症について学んで、マスコット作りをきっかけに認知症の方やご家族を温かく見守る応援者になってみませんか？作成したマスコットは、普及啓発活動のグッズとして役立てていきます。



↑実際に認知症サポーターステップアップ講座で作っていただいたマスコットです！

3月は春の火災予防運動週間です。

もしもの火災に備えて、防火対策をしましょう！

冬から春にかけては空気が乾燥し、暖房機器の使用も増えることから火災が発生しやすい季節です。火災はちょっとした油断から起こり、大切な命や財産を失う原因となります。今一度ご家庭の防火対策を見直しましょう。

住宅防火 いのちを守る **10** のポイント

4つの習慣

- ①寝たばこは絶対にしない、させない
- ②ストーブの周りに燃えやすいものを置かない
- ③コンロを使うときは火のそばを離れない
- ④コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く



6つの対策

- ①**出火防止**…ストーブやコンロ等は安全装置の付いた機器を使用する
- ②**早期覚知**…住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する
- ③**延焼拡大防止**…部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する
- ④**初期消火**…消火器等を設置し、使い方を確認しておく
- ⑤**早期避難**…避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく
- ⑥**地域の助け合い**…防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

住宅火災による死者のうち、約7割が65歳以上の高齢者となっています。高齢者の主な出火原因は、ストーブやコンロ、たばこが多くなっています。以下に気をつけましょう！

ストーブ

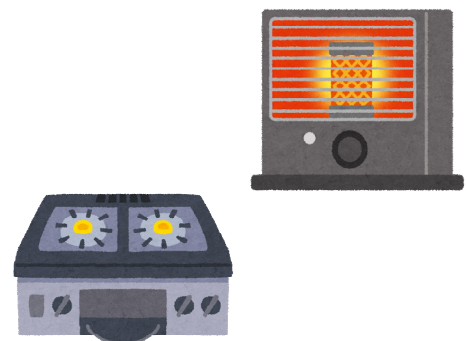
- ①近くに布団や洗濯物、カーテンなど燃えやすい物を置かない（布団類や衣類、繊維類への着火が多い）
- ②就寝時や外出時は消す

コンロ

- ①周りに燃えやすい物を置かない
- ②火が鍋底からはみ出さないようにする（着衣への着火が多い）
- ③コンロの奥や上のものであるときは、火を消してから取る

たばこ

- ①火種を落とさず、灰皿を使用する
- ②吸殻には水をかけ、消火してから捨てる
- ③寝たばこはしない（布団類への着火が多い）



火災が起きた際に危険を感じたら、すぐに逃げ、119番通報しましょう！

119番のかけ方



火事ですか？救急ですか？ → 火事です。

場所はどこですか？ → 松島町 丁目 番 号です。

何が燃えていますか？ → です。



いざという時に落ち着いて通報できるよう、日頃から手順を確認しておきましょう。

【発行】 松島町地域包括支援センター ☎ 022-354-6525